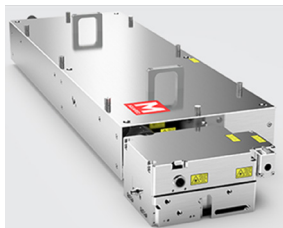




CW 単一周波数ミキシングモジュール SolTiS-EMM



SolTiS-EMM は、斬新かつ操作性に優れた全自動の CW 単一周波数ミキシング (和周波・差周波) モジュールで、同社の SolTiS の波長を紫外、可視、赤外域に拡張する外部モジュールです。SolTiS-EMM の登場により、特に、これまで煩雑なメンテナンスが必要だった色素レーザーに頼っていた波長域 (480 ~ 670 nm : クマリン、ローダミン、DCM など) で固体レーザーへの置き換えを可能にしました。全制御は SolTiS と同様、イーサネット経由の Web ブラウザ上 GUI 操作パネルにより完全自動化され、ハンズフリーを実現し、周波数掃引 (スキャン) にも対応しています。

特長

- 紫外・可視域の色素レーザーを全固体レーザー化
- 全波長域で単一周波数発振
- PPLN を用いた高効率シングルパスのミキシングで容易な操作
- アライメントフリー：波長可変してもアライメント不要

仕様

自動波長可変域	300 ~ 340 nm、480 ~ 670 nm、1100 ~ 4500 nm
ノイズ	0.5 % rms
狭線幅	<500 kHz
高出力	Up to 2 W (可視域のピーク波長)

操作画面



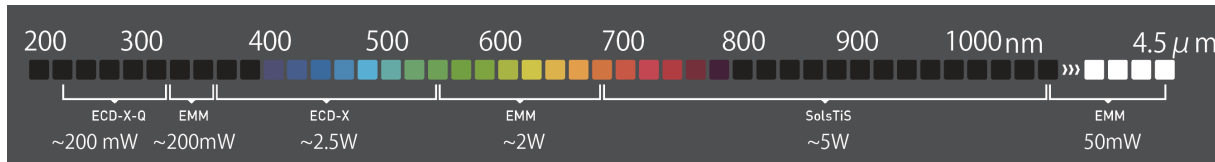
EMM (外部ミキシングモジュール) 構成例

和周波 (SFG)

- SolTiS + 1550 nm ファイバレーザー + EMM = 480 ~ 620 nm ; 出力目安 > 1 W
- SolTiS + 1950 nm ファイバレーザー + EMM = 515 ~ 670 nm ; 出力目安 > 400 mW
- SolTiS + 1550 nm ファイバレーザー + EMM + ECD-X-Q = 250 ~ 300 nm ; 出力目安 > 200 mW
- SolTiS + DPSS 532 nm + EMM = 300 ~ 340 nm ; 出力目安 > 100 mW

差周波 (DFG)

- DPSS 532 nm - SolTiS + EMM = 1.1 ~ 2.2 μm ; 出力目安 > 10 mW
- SolTiS - 1550 nm ファイバレーザー + EMM = 1.25 ~ 2.8 μm ; 出力目安 > 10 mW
- SolTiS - 1064 nm ファイバレーザー + EMM = 2.0 ~ 4.5 μm ; 出力目安 > 10 mW



高出力 CW-OPO レーザシステム TITAN

RADIANTIS

『Pump と OPO が一体化したアクティブ OPO』



アクティブ OPO シリーズの TITAN は、前例のない励起光のファイバレーザーと 光パラメトリック発振器 (OPO) をコンパクトで堅牢な単一プラットフォームに統合したワンボックス型の高出力 CW-OPO レーザシステム (>5.0 W @ ピーク波長) です。CW (連続発振) 発振波長はモデルに応じた出力ポートから近赤外域 (1450 nm) から中赤外域 (4000 nm) で、線幅 <100 MHz を完全自動制御 (ハンズフリー) にてご提供します。

特長

- 高ピーク波長出力
- 卓越したビーム位置安定性
- ハンズフリー動作を専用制御ソフトウェアがサポート
- レーザヘッド：コンパクト、完全密閉、メンテナンスフリー
- 分光器内蔵

アプリケーション

- 高分解能分光
- 計測
- センシング
- 赤外通信
- 顕微鏡用励起光
- 半導体研究

仕様

自動波長可変域出力①	1450 ~ 1980 nm
自動波長可変域出力②	2300 ~ 4200 nm
出力ポート① @ 1650 nm	>5 W
出力ポート② @ 3000 nm	>3 W
線幅	<100 MHz

一般的なチューニングカーブ

